

**別紙2** 基本刑法と基礎テキスト刑法第6期目次の対比

\*サイトビジット基礎講座6期ではやや応用的な内容を基礎講座刑法IIに回している

基本刑法I総論(第2版)及び基本刑法II各論(初版) 大目次(設問・コラムを除く)	基礎テキスト刑法第6期基礎講座刑法I目次
<p>●基本刑法I総論(第2版) 目次</p> <p>I 刑法および犯罪論の基礎</p> <p>第1講 刑法の基礎理論 2</p> <p>1 刑法の意義と分類 2</p> <p>2 刑法の機能 4</p> <p>3 刑法の基本原理 7</p> <p>4 犯罪理論 8</p> <p>5 刑罰理論(刑罰の正当化根拠) 10</p> <p>第2講 罪刑法定主義 13</p> <p>1 総説 13</p> <p>2 法律主義 15</p> <p>3 遡及処罰の禁止 17</p> <p>4 刑罰法規の適正性 18</p> <p>5 類推の禁止 21</p> <p>第3講 犯罪論の基本構造 24</p> <p>1 犯罪の概念 24</p> <p>2 構成要件と違法性・有責性の関係 29</p> <p>3 犯罪論体系 31</p> <p>4 犯罪認定の具体的手順 33</p> <p>第4講 構成要件 46</p> <p>1 構成要件の意義と機能 46</p> <p>2 構成要件の要素 48</p> <p>3 記述的構成要件要素と規範的構成要件要素 55</p> <p>第5講 因果関係 56</p> <p>1 因果関係の意義 56</p> <p>2 条件関係 59</p> <p>3 条件説と相当因果関係説 65</p> <p>4 相当性の判断構造 67</p> <p>5 相当因果関係説の危機 71</p>	<p>第1部 刑法総論</p> <p>第1編 刑法および犯罪論の基礎</p> <p>第1章 刑法の基礎理論</p> <p>第1節 刑法の意義と分類</p> <p>第2節 刑法の機能(役割)</p> <p>第3節 刑法の基本原理</p> <p>第2章 罪刑法定主義</p> <p>罪刑法定主義の派生原則</p> <p>1 法律主義(慣習刑法の禁止)</p> <p>2 遡及処罰の禁止(事後法の禁止)</p> <p>3 刑罰法規の適法性(明確性の原則)</p> <p>4 類推の禁止</p> <p>第3章 犯罪論の基本構造</p> <p>第1節 犯罪の概念</p> <p>第2節 構成要件と違法性・有責性の関係</p> <p>第3節 犯罪論体系</p> <p>第4節 犯罪成立の検討順序——違法有責行為類型説</p> <p>第2編 構成要件該当性</p> <p>第1章 構成要件</p> <p>第1節 構成要件の意義と機能</p> <p>第2節 構成要件の要素</p> <p>第3節 記述的構成要件要素と規範的構成要件要素</p> <p>第2章 因果関係</p> <p>第1節 因果関係の意義</p> <p>第2節 条件関係</p> <p>第3節 条件説と相当因果関係説</p> <p>第4節 相当性の判断構造</p> <p>第5節 相当因果関係説の危機</p>

6	危険の現実化説	73	第6節	危険の現実化説
第6講	不作為犯	79	第3章	不作為犯
1	総説	79	第1節	総説
2	不作為による実行行為	82	第2節	不作為による実行行為
3	不作為の因果関係	89	第3節	不作為犯の因果関係
第7講	故意(構成要件の故意)	91	第4章	構成要件の故意
1	(構成要件の)故意の意義と体系的地位	91	第1節	故意の意義と体系的地位
2	認識・予見の対象となる犯罪事実	92	第2節	認識・予見の対象となる犯罪事実
3	故意と過失の区別	97	第3節	故意と過失の区別
4	故意の種類	99	第4節	故意の種類(認容説を前提)
第8講	錯誤(1)具体的事実の錯誤	101	第5章	錯誤(1)——具体的事実の錯誤
1	事実の錯誤の意義	101	第1節	事実の錯誤の意義
2	客体の錯誤・方法の錯誤	105	第2節	客体の錯誤・方法の錯誤
3	因果関係の錯誤	113	第3節	因果関係の錯誤
第9講	錯誤(2)抽象的事実の錯誤	119	第6章	錯誤(2)——抽象的事実の錯誤
1	抽象的事実の錯誤の意義	119	第1節	抽象的事実の錯誤の意義
2	抽象的事実の錯誤と法定的符合説	120	第2節	抽象的事実の錯誤と法定的符合説
3	抽象的事実の錯誤の3類型とその処理	125	第3節	抽象的事実の錯誤の3類型とその処理
第10講	過失犯	130	第7章	過失犯
1	総説	130	第1節	総説
2	過失犯の本質と成立要件	132	第2節	過失犯の本質と成立要件
3	過失犯の成否の判断方法	135	第3節	過失犯の成否の判断方法(新過失論)
4	信賴の原則	141		
5	段階的過失	143		
6	過失の競合	144		
7	管理・監督過失	145		
III	違法性		第3編	違法性
第11講	違法性の本質・正当行為・被害者の承諾	150	第1章	違法性の本質・正当行為・被害者の承諾
1	違法性の本質	150	第1節	違法性の本質
2	正当行為	156	第2節	正当行為
3	被害者の承諾(同意)	159	第3節	被害者の承諾(同意)
第12講	正当防衛(1)防衛状況を中心に	167	第2章	正当防衛(1)——防衛状況
1	正当防衛の意義	167	第1節	正当防衛の意義
2	侵害の急迫性	171	第2節	侵害の急迫性

3	侵害の不正性	177	第3節	侵害の不正性	
4	反撃行為性	180	第4節	反撃行為性	
第13講	正当防衛(2)防衛行為	184	第3章	正当防衛(2)——防衛行為	
1	防衛するための行為	184	第1節	防衛するための行為	
2	「やむを得ずにした行為」	189	第2節	「やむを得ずにした行為」	
3	自招侵害と正当防衛	195	第3節	自招侵害と正当防衛 (刑法 II(188 頁))	
4	過剰防衛	198	第4節	過剰防衛 (刑法 II(190 頁))	
第14講	緊急避難	204	第4章	緊急避難	
1	総説	204	第1節	総説	
2	緊急避難の成立要件	207	第2節	緊急避難の成立要件	
3	過剰避難	211	第3節	過剰避難	
4	緊急避難の限界	211	第4節	緊急避難の限界 (刑法 II(192 頁))	
IV	責任		第4編	責任	
第15講	責任の意義・責任能力	216	第1章	責任の意義・責任能力	
1	責任の意義	216	第1節	責任の意義	
2	責任能力	220	第2節	責任能力	
3	原因において自由な行為	222		原因において自由な行為 (刑法 II(193 頁))	
第16講	責任故意と違法性の意識	231	第2章	責任故意と違法性の意識	
1	責任故意総説	231	第1節	責任故意総説	
2	違法性の意識	232	第2節	違法性の意識	
3	正当化事由の錯誤	239	第3節	正当化事由の錯誤 (誤想防衛)	
V	未遂犯		第5編	未遂犯	
第17講	実行の着手	248	第1章	実行の着手	
1	総説	248	第1節	総説	
2	実行の着手に関する学説	252	第2節	実行の着手に関する学説	
3	実行の着手に関する判例	259			
4	早すぎた構成要件の実現 (早すぎた結果発生)	262	第4節	早すぎた構成要件の実現 (刑法 II(196 頁))	
第18講	不能犯	267	第2章	不能犯	
1	不能犯の意義と問題の所在	267	第1節	不能犯の意義	
				危険性の意義	
2	危険性の判断	271		危険性の判断	
3	判例の状況	275		本時のまとめ——危険性の判断のあてはめ	
第19講	中止犯	278	第3章	中止犯	

1 総説 278	第1節 中止犯の意義・要件・効果
2 刑の必要的減免の根拠（中止犯の法的性格） 280	第2節 刑の必要的減免の根拠（中止犯の法的性格）
3 中止行為（「中止した」） 283	第3節 中止行為（「中止した」）
4 任意性（「自己の意思により」） 289	第4節 任意性（「自己の意思により」）
VI 共犯	第5節 予備・陰謀の中止
第20講 共犯の基礎理論 296	第6編 共犯
1 総説 296	第1章 共犯の基礎理論
2 正犯と共犯の区別 301	第1節 総説
3 共犯従属性 303	第2節 正犯と共犯の区別
4 共犯の処罰根拠 308	第3節 共犯従属性
第21講 間接正犯 312	第4節 共犯の処罰根拠
1 総説 312	第2章 間接正犯
2 間接正犯の諸類型 315	第1節 総説
第22講 共同正犯 322	第2節 間接正犯の成否が問題となる類型（刑法II(199頁)）
1 総説 322	第3章 共同正犯
2 共同正犯 322	
(1) 共同正犯の本質 322	第1節 共同正犯の本質
(2) 実行共同正犯と共謀共同正犯 324	第2節 実行共同正犯と共謀共同正犯
(3) 共同正犯の成立要件 329	第4節 共同正犯の成立要件
(4) 共同正犯の諸類型 332	第5節 共同正犯の諸類型（刑法II(203頁)）
(5) 共同正犯と狭義の共犯との区別 338	
(6) 処 分 339	
第23講 教唆犯と幫助犯 340	第4章 教唆犯と幫助犯
1 教唆犯 340	第1節 教唆犯（61条）
2 幫助犯 344	第2節 幫助犯（62条）
第24講 共犯の諸問題(1) 共犯と身分など 351	第5章 共犯の諸問題(1)（刑法II(205頁)）
1 共犯と身分 351	第1節 共犯と身分（刑法II(205頁)）
2 不作為と共犯 361	第2節 不作為と共犯（刑法II(208頁)）
第25講 共犯の諸問題(2) 共犯の錯誤など 365	第6章 共犯の諸問題(2)（刑法II(198頁)）
1 共犯の錯誤 365	共犯の錯誤（刑法II(198頁)）
2 過失と共犯 377	
第26講 共犯の諸問題(3) 承継的共犯など 380	第7章 共犯の諸問題(3)（刑法II(212頁)）

1 承継的共犯 380	承継的共同正犯 (刑法 II(198 頁))
2 共犯関係の解消 388	共犯関係からの離脱 (刑法 II(198 頁))
3 共犯の中止犯 392	共犯の中止犯 (刑法 II(198 頁))
4 共犯と違法性阻却 394	共犯と違法阻却 (刑法 II(198 頁))
VII 罪数および刑の適用	第7編 罪数および刑の適用
第27講 罪数論 400	第1章 罪数論
第28講 刑罰論 423	第2章 刑罰論
1 刑罰の体系 423	第1節 刑罰の体系
2 刑の適用 428	第2節 刑の適用
3 刑の執行および執行猶予 434	
第29講 刑法の適用範囲 443	
VIII 補論	
第30講 事例問題の解き方 458	